

エストロン・エストラジオール

研究検査

2024年10月現在

検査概要

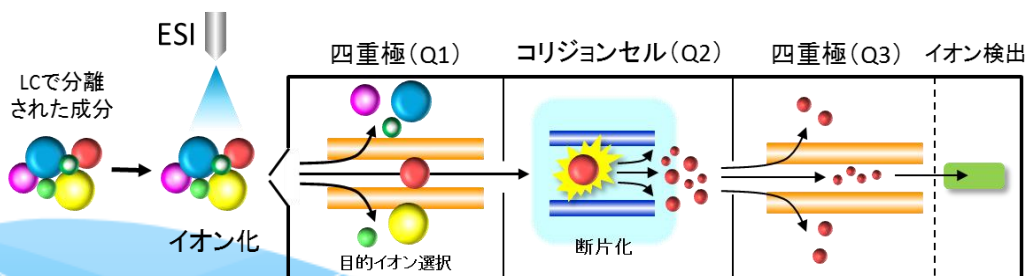
検査法	質量分析（LC-MS/MS）
検査項目	エストロン（E1）、エストラジオール（E2）
材料	血清、血漿
必要量	600 μ L
保存方法	採血後遠心分離し、上清をマイクロチューブに移した後、 -80℃にて保存
定量範囲	エストロン：5.00～500 pg/mL エストラジオール：5.00～500 pg/mL
最低出検数	30 検体
納期	検体受領後 1カ月

使用機器について

エストロンおよびエストラジオールは、ダンシルクロリドで誘導体化後、トリプルQ型質量分析装置を用いたMRM (Multiple. Reaction Monitoring)による定量分析を行っています。

Q1で目的のプレカーサイオンを選択し、続くコリジョンセルで不活性化ガスと衝突させ断片化します。さらにQ3でプロダクトイオンを選択することにより、高選択性・高感度の定量分析が可能になります。

検査装置：Waters製
トリプルQ型質量分析装置
Xevo TQ-XS



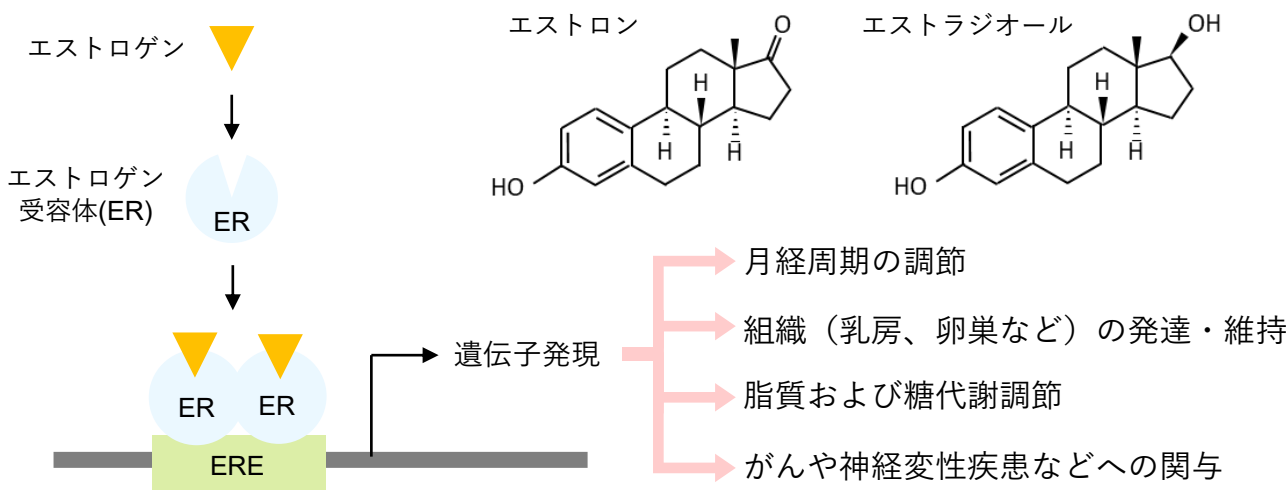
エストロン・エストラジオールとは

臨床的意義（測定意義）

エストロンおよびエストラジオールは、女性ホルモンであるエストロゲンの一種であり、特にエストラジオールはエストロゲンの中でも生理活性が高いことが知られています。

また閉経後は、卵巣で産生されるエストラジオールはほとんど分泌されなくなり、副腎や脂肪組織で産生されるエストロンが主要なエストロゲンとなります。

エストロゲンは、月経周期を調節し、乳房、卵巣および子宮内膜などの組織の発達・維持、脂質代謝、タンパク質合成、がんや神経変性疾患などに関与していることが報告されています。



エストロン・エストラジオール検査 バリデーション結果

項目	評価方法	結果
日内再現性	N = 5 の C V 値	C V < 15 %
日間再現性	N = 5、3 日間の C V 値	C V < 15 %
真 度	真値からの乖離	R E < 15 %
検量線直線性	検量線からの乖離	R > 0.99 R E < 15 %
添加回収率	回収率	R E < 30 %
前処理後安定性	4℃ 72時間放置	R E < 15 %
選択性	ピーク形状	ピーク形状が単一

お問い合わせ



KPSL
九州プロサーチLLP

〒819-0388

福岡県福岡市西区九大新町4-1
九州プロサーチ有限責任事業組合
<https://kpsl.jp/>